



国際シンポジウム

～世界各国の教授が語るピアノ教育の未来

3月29日（金）東京芸術劇場大ホール



3月29日（金）東京芸術劇場大ホールにて、国際シンポジウム「ピアノ教育の未来」が開催された。日英同時通訳で行われたこの会議の来場者数は約550人、9名5カ国のプロフェッサー達による討議に聞き入った。各国におけるクラシック音楽の現状、特に聴衆・学習者の状況に始まり、コンクールの意義、音楽性と国民性のかかわり、音楽家の社会的役割、そしてこれからの指導者に求められる役割など、3時間半にわたって幅広い問題提起がなされた。このシンポジウムに参加されたすべての方が、なにか一つ、問題意識をもって実践されることを期待したいという今井顕進行役の言葉どおり、未来への足がかりになったことと思われる。

なお、本誌特集1では、このシンポジウムの全内容をご紹介します。



<パネリスト一覧>

- ボール・ボライ
(ジーナ・バックアウアー国際コンクール主宰)
- ジェーン・バスティン (バスティンメソッド創始者)
- ヴィクトール・マカロフ
(オーストラリア音楽学校ピアノ科主任教授)
- ジャネット・リタマン (英国王立音楽大学学長)
- ジャック・ルヴィエ (パリ国立高等音楽院ピアノ科教授)
- ローラント・ケラー (ウィーン国立音楽大学教授)

<総司会>

- 橋本三恵子
(当協会理事・東京音楽大学ピアノ科主任教授)

<コーディネーター>

- 今井顕 (当協会評議員・国立音楽大学大学院助教授)
- 江崎光世 (当協会評議員)



来日教授個人レッスン

～海外のレッスン室を日本で体感するひととき

3月28日（木）～31日（日）東京音楽大学J館教

3日に渡って、5教室で行われたレッスンは、先生、受講生はもちろん、聴講生も多数集まり、熱気あふれた授業となった。日頃なかなか味わうことのできないその国ならではのレッスン法が参考になったとの声が多数あり、国籍も教える生徒層も異なる5人の先生方のレッスンが一度に開催されたため、各教室を見学できた聴講生にも実りの多いものとなった。



①ポール・ボライ先生②ヴィクトール・マカロフ先生③ジャック・ルヴィエ先生④ジャネット・リタマン先生⑤会場となった東京音楽大学J館



第25回ピティナ・ピアノコンペティション

入賞者記念コンサート

～三大ジュニア国際コンクール優勝者をゲストに迎えて

3月27日（水）～30日（土）東京音楽大学A館ホール



3日に渡って行われた入賞者記念コンサート。各日出演者全員で記念撮影。①初日はコンチェルト・アンサンブル等、ソロ以外のプログラムも多彩。②特級グランプリの佐藤展子さん登場。③最終日はデュオ3組出演。

2001年度、第25回を迎えたピティナ・ピアノコンペティション。その記念すべき年のソロ部門・デュオ部門・コンチェルト部門金賞・銀賞受賞者が豪華共演！総勢42名の出演者が3日間にわたって、ソロ、デュオ、コンチェルト、アンサンブル、と多彩なプログラムを繰り広げ、のべ1200人のお客様にご来場いただき、夏の全国決勝大会の熱気がふたたび蘇ったかのような盛況ぶりだった。

それぞれが一番好きな曲や、挑戦したかった曲を選ばれているのだろう、演奏した後の晴れ晴れとした表情が印象的だった。

今年特筆すべきこととして、初めて海外からヤングピアニストをお迎えしたことがある。1日目には韓国から、2001年度ジーナ・バックアウワー国際コンクール（14才～18才の部）第1位のキュー・ヨン・キムさん、2日目にはドイツから、2001年スタインウェイ国際コンクール（17歳以下の部）第1位ボリス・クスネツォフさん、3日目には、ポーランドから、2000年ルービンシュタイン記念若いピアニストのための国際コンクール第1位のビョートル・ズコウスキさん、同じく第1位でポーランド留学中の大嶺未来さん。さすが世界の舞台で活躍しているだけある、と思わせる堂々とした演奏で、今後世界に羽ばたいていくであろうピティナっこたちに良い刺激を与えたことだろう。





写真) 2001年度ビティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会から7ヶ月、それぞれに成長した姿と磨きをかけた演奏を披露した。今回は海外のジュニア国際コンクールの優勝者4名をゲストとして迎えた他、アンサンブルオーディションにて選

抜された3組のアンサンブルが初出演。また、数日前に決勝を終えたばかりのコンチェルト部門から最優秀賞の関本昌平君ら各級入賞者1名ずつ、さらに昨夏アカデミック部門最優秀賞受賞者も出演するなど、内容盛り沢山のコンサートとなった。

アンサンブル研修オーディションから 初出演

●入賞者記念コンサートに室内楽オーディションの受講生が出演。緊張した部分はあったものの他の人とアンサンブルをする楽しさ、すばらしさを十分に味わってくれた事と思います。制約がある中でピアノ、ヴァイオリン、チェロの3人が思い通りの音楽を作り上げての演奏でした。アンサンブルするというすばらしさに加え、音楽する人間の心の成長がそこに大きくあったように思います。大先輩の二人の弦楽奏者に支えられ、若いピアニストの音楽性が大きく引き出されてゆくのを見て、短時間ではありましたが、指導者としての大きな喜びを感じました。アンサンブルの出来るピアニストが沢山誕生してくれる事を願っています。(研修会A講師 大石潤先生)

●三人で一つの音楽を奏でるのは大変難しい事ですが、うまく心が通じ合い音楽表現が高められた時の喜びは、ソロに無い快感を味わうものです。今回の三人の方々は、ソロとは勝手が違うことに少々とまどいを感じながらも演奏会本番に向けて素晴らしい成果を聴かせてくれました。聴衆の一人として私も楽しませて頂き嬉しく思いました。(研修会B講師 金子恵先生)



ピアノ演奏は三谷知子さん(中級)。
ヴァイオリン: 田辺秀樹先生、チェロ: 諸岡由美子先生



ヒティナ・ピアノステップ ～未来のステップ像を求めて

3月30日（土）東京音楽大学J館スタジオ

従来の「ピアノ演奏」という枠を越えて、全国各地から集まった19組の有志達がそれぞれの「音楽」の楽しみ方を披露した。

第1部では、古楽器を使った親子アンサンブル、93歳ピアノソリストを囲んでの合唱、自作コンチェルト・歌の披露、60年来の幼馴染のデュオ、仲良し3人組の木管三重奏など、音楽を通した人と人との暖かいつながりが溢れ出るステージだった。

第2部はコンピューターを駆使したシンセサイザー演奏に始まり、9人の子供達が楽器から楽器へと移りながら演奏する見事なオーケストラメドレー、思わず体を動かしたくなるノリノリのルパン3世のテーマ曲演奏、息を呑む優雅な弦楽二重奏、三重奏演奏など「音楽」の限らない可能性がそこにあった。いつもはステップ運営を手がけるステップステーションのスタッフの方も、今回はステージに上り、抜群のチームワークで2台8手連弾を披露した。

客席では、希望者約50名からなる「1日アドバイザー」が真剣なまなざしで出演者へメッセージを書き綴っていた。出演者にとっては、かけがえない最高のプレゼントとなったことであろう。

ご協力いただいたステップステーションの先生方、出演者の皆様、来場下さった方々にこの場をかりて心から御礼申し上げます。

今年で6歳の誕生日を迎えるヒティナ・ピアノステップ。新たな気持ちで「音楽」を求め、これからもワンステップづつ皆様と共に歩んでゆきたい。



ピアノライフ合同発表会

～桜前線にのって～おとなのアンサンブル大集合！

3月31日（日）東京音楽大学A館ホール

ピアノライフ全国合同発表会では、全国から21組、270名の大人のピアノの生徒、指導者が集まってアンサンブルを披露した。全国各地でピアノ協会が主催する実年のためのピアノ教室。その受講生を中心に発足したピアノライフ・サークル（IHSPC）のメンバーを中心に、サークル誌の発行、隔年で発表会開催などの活動を行ってが、今回は初めて、沖

縄から栃木まで全国のサークルが合同で発表会を行った。

700名収容の会場は2階席まで埋まる盛況。埼玉中央支部実年ピアノ教室の協力で準備された17台のシンセサイザーと1台のグランドピアノで、工夫をこらしたステージが披露された。オープニングを飾った沖縄県那覇市『でいご』宮崎県日向市『日向実りの会』宮崎県宮崎市『ひむかしばんぶきん』など、個性的なサークル名に負けない演奏で、会場の熱気は素晴らしいものがあった。埼玉県さいたま市から参加の『さくら草アンサンブル』では、手話と歌も入った『いい日旅立ち』、栃木県今市市『ピアノサークル杉』は、この日のために特別に編曲を依頼した『ひよこがピッピッ』をジェスチャー入りで演奏。また、賛助出演の埼玉中央支部実年講師『八木節』は気合の入ったハッピー姿で和太鼓とのアンサンブルを披露した。

それぞれが各地で同じ夢をもって励む仲間の存在を確かめて、閉会となった。



左）総勢250余名の大合同発表会！



ピティナ・ピアノ指導セミナー ～初級から中級の指導ノウハウ集大成

3月28日（木）～30日（土）東京音楽大学A館ホール

開催毎にご好評を頂いているピティナ・ピアノ指導セミナーをピティナ・ワールドフェスティバルに合わせ、初級・中級と一気に開催した。それぞれ各分野で実績を持つ講師による個性豊かな講座の数々、通常より広いホールでの開催であったがどの講座も大勢の参加者を迎え、熱気にあふれた3日間となった。

トップバッターは長期導入型メソッドについてバスティン先生、レッスン風景のビデオや多彩なデモンストレーションを交えて、決められたレッスン時間をいかに楽しくクリエイティブなものにするか、という創意工夫が垣間見える内容、続いてはピアノの指導を続けながら、その活動を地域とのより広いつながりに発展させた藤原亜津子先生、地元でのオペラ開催など大規模企画の話と並行して、先生が工夫されている日々のレッスンのエピソードも興味深かった。3番目はバルトークのミクロコスモスを取り上げたセルヴァンスキー先生、教材の説明にとどまらず、音楽において耳を育てる重要性など本質的な話題にも言及、そして初級の最後はポール・ボライ先生、「魔法のレシピ」という魅力的なタイトル通り、導入から注意すべき本質的な数々の事柄が提示された。特にすぐれた一部の人のためではなく、今日からでも実施できるちょっとしたアイデアが満載の講座であった。

中級は三善晃先生から、三善メソッドの紹介の中で先生ご自身の演奏も披露され、その美しい音色に会場中が魅了さ

れた。ジャック・ルヴィエ先生はご自身の、そして門下生の豊富なコンクール体験を生かして実践的なコンクールへの取り組み方を素晴らしい演奏も交えてご紹介頂いた。最後のカヴァイエ先生は流暢な日本語での講座、クルタークの特徴を実演を交えて紹介、終了後も多くの質問が引きも切らなかった。

- ①日本でも馴染みのジェーン・バスティン先生②ヴァレリア・セルヴァンスキー先生③ポール・ボライ先生④藤原亜津子先生⑤ロナルド・カヴァイエ先生が全編日本語で講義された。
⑥ジャック・ルヴィエ先生⑦三善晃先生





国際キャリアアップセミナー

～国際舞台で活躍するために

3月28日（木）東京音楽大学A館教室



第1部「国際コンクールガイダンス」は、国際コンクール研究の第一人者、グスタフ・アリンク氏の講演からスタートした。豊富なデータをもとにしたコンクール歴史調査や参加者分析で知られる氏は、スライドを使っのプレゼンテーション。コンクール参加する際の留意点等や、2000を超える国際コンクールの中からいかに効果的に情報収集するか、等に言及。またアルゲリッチ等、これまでに撮影した著名アーティストの写真も披露された。（写真：通訳はピティナ国際委員長の今井麗氏）

続いてのポール・ボライ氏は、今伸び盛りのジーナ・バックアウアー国際コンクールの創始者であり主宰。その立場から、国際コンクールからどのようなピアニストを輩出したかを語った。ユンディ・リが3年前のジュニア部門で優勝していたことから、一躍世界的に知られる存在になったが、今年6月に開催されるシニア部門には500名以上のプレオーディション申込者が集まったという、世界記録を達成したばかり。コンクールを受ける際は、主宰の理念や過去の入賞者を理解しておくことも、自分に適したコンクールを選ぶ一つの方法だろう。

最後に登場したヴィクトール・マカロフ氏は、2000年浜松国際で優勝したアレクサンダー・ガブリリュク氏の恩師。

コンクール優勝に至るまでのプロセスを、子供の発育過程に注視した指導事例を交えて紹介した。音楽を深く愛する心とその指導に傾ける情熱はマカロフ氏の熱弁によく現れ、会場は熱気に包まれた。

第2部の国別留学ガイダンスでは、海外ゲスト4名（英：ジャネット・リタマン／独：ローラント・ケラー／仏：ジャック・ルヴィエ／留学全般：ロナルド・カヴァイエ）による国別留学事情の紹介、そして留学経験者によるQ&Aコーナーが設けられ、100名を超える聴講者より質問が飛び交った。



！各国留学事情について、ゲスト教授より説明（写真はカヴァイエ先生）表情豊かに話すマカロフ先生# コンクールについて詳しく説明するアリンク氏（通訳：今井国際委員長）\$ 国際委員長が中心となり、聴講者からの質問に丁寧に回答した。



音楽療法セミナー ～レクチャーと実践・体験

3月31日（日）東京音楽大学J館スタジオ

音楽療法の概要に関するレクチャー・ピアノを使ったモデルケースの紹介・体験型のリズム講座など、ほとんど休みなしで続けられた。約160名の受講者は、レジュメにメモを取りつつ真剣に話しに聞き入り、講師のジョーク・ユーモアに沸いたり、客席全体が一体となって踊ったり歌ったり、参加型で飽きさせないアイディアに満ちた内容。「4時間が非常に短く感じられた」との声が寄せられた。



コンピュータ活用講座 ～レッスンに役立つパソコンの基礎

3月28日（木）東京音楽大学J館教室

講師を担当してくださった保坂千里先生は、ピアノ指導者がパソコンを活用するための基礎的な使用法を解説。定員30名を越える39名のピアノ指導者が受講し、会場に設置されたパソコンに実際に触れながら、名刺作成・譜面入力などに挑んだ。





師弟コンサート

～先生と生徒ならではの息のあったアンサンブル

3月30日（土）サンシャインプリンスホテル内

先生方のメンバーはいつもピティナで活躍中のおなじみの方々だったが生徒さんの顔ぶれは実にさまざま、コンペティション経験者、ステップ経験者、または手・腕にハンディをかかえながらもピアノが好きでがんばっている方々、年齢層も生徒側では小学校低学年から40才まで、とまさに多彩、実はピティナでいつも「先生」と呼ばれている方々がこの日ばかりは生徒側にまわって、などというお楽しみも登場した。

この日の進行は演奏研究委員会きっての名司会、小佐野圭先生と國谷尊之先生の絶妙のコンビで軽妙に楽しく進められた。先生サイドには内緒で生徒さんから頂いた作文・メッセージを紹介しながら先生の子供時代、いつもの印象からは判らない意外な一面を笑いとともて会場に紹介した。師弟の演奏では生徒さんの方が案外落ち着いていて、まるで生徒さんに励まされているような微笑ましい先生方の姿も印象的で、何よりも皆一体になって音楽を楽しんでいる雰囲気伝わり、満員の客席とともに素晴らしいひとときを共有できた演奏会であった。



音楽鑑賞講座

～効率よい鑑賞のカギは作品番号に

3月31日（日）東京音楽大学J館スタジオ

ピアノ曲に焦点を当てながら、作品の変遷と作風の関連を概観。一般的に知られた作品番号の他に、作曲家固有の作品番号の紹介、その記号の由来、背景、そして作品番号順が必ずしも作品完成年度とは一致していないことにも言及。バハから近現代までの音楽史の流れの中から、ベートーヴェン、ショパン、シューマン、ブラームス、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフという、ピアニストには外せない8人の作曲家を選び、各作曲家ごとに、作品番号順の表、完成年代順の表、またドビュッシーやラヴェルなど作品番号のない作品では、その作風の時代区分例なども提示されており、マクロ的理解を助けてくれる。さらに作成が大変だったという、レッスン室に飾るのに最適な、ピアノを巡っての120人の作曲家年表（年代別、国別）の資料も参加者に配られた。なお、CD鑑賞した作品はショパン夜想曲2曲（Op9-2、Op55-2、英雄ポロネーズ、舟歌）、フォーレ夜想曲3曲等。（編集広報委員 田中麗子）





ピティナ・ワールドフェスティバル フェアウェルパーティー PTNA WORLD FESTIVAL CLOSING PARTY

主催：社団法人 全日本ピアノ指導者協会



●フェアウェルパーティ

上) 3月30日(土) フェアウェルパーティにて(於：サンシャインプリンスホテル)。支部功労賞の授与、海外ゲストによるスピーチ(通訳：今井国際委員長)等、会場は華やかなムードに包まれた。会場内では海外ゲストの先生方との記念撮影や、フェスティバル出演者・来場者同士で歓談。最後は竜ヶ崎支部長の藤原亜津子先生の音頭による一本締めで幕を閉じた。

●各種会議

フェスティバル期間中、各種会議も開かれた。全国のピティナ関係者が参集した今回、白熱したディスカッションが連日繰り広げられた。本誌ニュースコーナーでレポートを紹介する。

左上) 審査員長連絡会 左下) ステーション連絡会 右下) 全国支部連絡会





5日間で延べ約8000名のご来場を頂きました。どうもありがとうございました。



コンチェルト部門 全国決勝大会開催される

2001年度ピティナ・ピアノコンペティション

3月24日(日)、洗足学園前田ホールにて、2001年度ピティナ・ピアノコンペティションコンチェルト部門全国決勝大会が開催された。予選を通過した20名が参加、上級の関本昌平さん(当時高1)が最優秀賞を受賞した。今回上級は洗足学園オーケストラとの共演。前日のリハーサルから指揮の小田野先生と打ち合わせをしながら仕上げをかけ、審査当日は見事なコンチェルトを披露した。

なおコンチェルト部門結果及び審査講評等は本誌特集2にて詳しく取り上げているので、ぜひご覧頂きたい。



左) 表彰式にてコメントする小田野宏之先生
上) 最優秀賞を受賞した関本さん
右) 入賞者がざらり。



コンサート

コンクール

他コンクール

ステップ

セミナー

レッスン

検定

試験